

第3回 福知山市新文化ホール整備基本構想・基本計画検討委員会

会 議 録【概要版】

【日 時】 令和4年9月20日（火）14:00~16:00

【場 所】 福知山市厚生会館 中会場

【出席者】（委 員）12名、内4名オンライン参加

（事務局）地域振興部 大西部長

文化・スポーツ振興課 森田次長、西村担当課長、

西村課長補佐、増田主事

シアターワークショップ 伊東、佐藤

真木、長谷川（オンライン）

（関係課）建築住宅課 中川次長

都市・交通課 芦田担当課長

1 開 会

2 開会挨拶

3 協議事項

（1）前回委員会のまとめと質問事項の確認

（2）市民意見の収集（文化振興基本方針策定時の市民意向調査）

（3）市民意見の収集状況

ヒアリング結果（まとめ）

Web アンケート（中間報告）、WS（中間報告）

（4）新文化ホールの基本理念（案）

（5）施設等の概要（案）

（6）管理運営の考え方（案）

4 その他

5 閉会

【議事】

（1）前回委員会のまとめと質問事項の確認

○事務局より説明

（2）市民意見の収集（文化振興基本方針策定時の市民意向調査）

○事務局より説明

(3) 市民意見の収集状況

○事務局より説明

- 委員 : 市民交流プラザの稼働率が高いということだが、その理由を知りたい。文化協会加盟団体の利用料が減免になるからであろうか。
- 事務局 : 理由については分析しきれていない。
- 委員長 : 市内での練習の場が不足していると記載があるが、交流プラザの利用内容では練習だけでなく、美術系団体の日常活動も多いようである。
- 委員 : 様々な文化関係団体が市民交流プラザを利用しており、練習利用も多い。予約が取りにくい状況にある。
- 委員長 : ヒアリングにバレエや演劇の声が少ないが、舞台芸術関係団体へのヒアリングはできているか。
- 委員 : 交流プラザの利用者は文化協会の加盟団体も多いが、非加盟団体も多い。ヒアリング結果が文化活動の全体を表しているわけではない。
- 事務局 : バレエ団体は専用の練習場を持っているとのことであった。
- 委員長 : 自前の練習場で十分なのか、他に会場を欲しているが適した場所がないのか。また、若い世代の音楽活動等にとって、民間の練習場所が足りているのかを知りたい。
- 委員 : 若い世代が芸術活動をしているのかは、わからないというのが現状である。福知山公立大学には吹奏楽サークルがあるが、学内で練習活動をしている。高校生のバンド活動等はあると思うが、公共施設には機材もないので、自分たちの使いやすい場所で練習しているのではないか。若い世代が中心になって文化活動をしている姿は大変見つけにくいというのが現状。
- 委員長 : 市内にはスタジオ等はないのか。
- 委員 : 混声合唱団は保育園を練習場所に使っていたが、コロナ禍により使用できなくなり、交流プラザを利用している。厚生会館は減免制度がないので、交流プラザを利用する。混声合唱団の若い世代も、同様に小学校を練習場所としていたがコロナ禍により使用できなくなり、交流プラザを利用している。
- 委員長 : 練習場所として適した空間が市内に少ないのか、ないのか。それが、練習状況が表に出て来ないという結果につながっているかもしれないため、練習場所の不足については考えておく必要がある。
- 委員 : 交流プラザの利用者に話を聞くと、ほどよい広さ、清潔感、アクセスの良さから稼働率が高いようである。毎週決まった時間に利用するようなことは難しいほど、予約が多いようである。
- 委員 : 市内にはボランティアサークルが 56 団体あり 1800 人の会員がいる。総合福祉会館は、ボランティアサークルが無料で使えるため、稼働率が非常に高い。利用料がかからないこと、駐車場があることが高稼働率の理由ではないか。

事務局：交流プラザができたことで市民の活動が変わったのか、という質問を委員長からいただいたので、過去の利用状況を集計している。

委員長：活動の少なさには背景があるのではないか。市の文化活動施設の整備が遅れているからなのかどうかをはっきりさせたい。新しい施設によって活動が生まれたことがわかれば、新文化ホールでも、どういった機能が活動を促すきっかけになるかを考えることができる。

委員長：ヒアリング結果の「活動状況 ③会場選びで重視すること（公演・発表利用）」の部分において、客席規模について意見があるので、まとめの部分でも言及すべき。「基本的な設備」という文言のまえに、「ホールとしての性能・」という追記をするのが良いのではないか。

また、「現厚生会館について ②ホールの使い方」では、「平土間を有効に活用している」とあるが、苦肉の策として活用せざるを得ないのではないか。「現厚生会館について ③会館の良い点・改善すべき点」にある、「地域にとってなじみがあること」等は非常に大切な点である。ヒアリング結果全体のまとめにもつながってくる。

「新施設にのぞむこと」は建築的内容に寄りがちだが、市民の想い、福知山ならではのつながりを生む、というようなことを上手くまとめると良い。

委員：ワークショップは、前向きに文化活動に参加している方々の集まりであった。活発な意見、思いが現れた。市内で精力的に活動している方々がいることを検討委員会でも共有することで、良い議論ができると思う。

委員長：ワークショップの意見で「市民の意見が反映される運営をしてほしい」とあったが、具体的にどのような運営なのかまで突っ込んで聞いてほしい。

委員：市民の声として、抜け落ちてしまいがちなのが客席に座る側の人の声である。観客の声を我々委員が類推していく必要がある。市民のために何ができるのか考えていかなければいけない。ワークショップでもそういった部分を拾っていただきたい。市民がいま何に困っているのか、ということが具体的に見えてくると良い。

委員長：意識調査にも、「文化芸術が盛んな地域として知られること」、「だれでも文化芸術に触れられるようになること」というのが目指すべき将来像として多く挙げられている。市民に支えられないとできないことであるので、どう実現するかを共に考えていきたい。

(4) 新文化ホールの基本理念（案）

事務局：第1回に提案したスケジュールでは、今回の第3回検討委員会で基本構想（案）を提出するとしていたが、提出できなかった。次回委員会にて提出したい。ついては、スケジュールの変更が必要になる。

委員長 : この進め方で良いと思うが、どうか。

委員 : 当初のスケジュールが変更になったとしても、慎重に検討していく必要があると思うため、事務局の提案に賛成する。

○「新文化ホールの基本理念（案）」について事務局より説明

委員長 : ホールの利用傾向として、音楽会等の鑑賞、集会、展示会等の利用が大半を占めるとあるが、音楽会等の鑑賞はそこまで多いだろうか。

事務局 : 集会、展示会と併せた形で記載している。第1回検討委員会資料に厚生会館のジャンル別利用状況を挙げている。大会・式典等が22.9%、展示会が30%、音楽会等として講演会、演劇、演芸、音楽会、コンサート、映画会、日舞、洋舞等を併せて、20%ほどにあたるので、大半を占めると書いている。

委員 : 基礎調査の分析は市とシアターワークショップのどちらで行ったか。

事務局 : 分析はシアターワークショップにて行い、市とシアターワークショップで文章化した。

委員 : 「近隣市町には中規模以上の多目的ホールが多数あり、施設や事業に特徴を持つ施設も多い」とあるが、どういった特徴があるか。厚生会館も含め、どの施設にもよし悪しは別にして特徴はあるため、あえて記載する必要があるだろうか。

事務局 : 例えば客席数、音響の重視、育成事業への注力、コンクール等、それぞれ特徴を持っていると認識している。

委員長 : 基本的役割の「知る・見る・感じる」というのが、受け身であるように感じる。能動的な活動に触れてほしい。「次世代の人材の育成」の部分においても、すぐに次世代の人材は生まれなため、指導者の育成という要素を入れてはどうか。

委員 : 交流が重要というのは共通認識だろうが、基本理念（案）にある「つなぐ」ということは、これからの文化会館にとって重要になる。福知山市は合併もあり、新文化ホールは一種の交流のハブになる必要があるのではないか。

委員長 : 現在ある5つに加えて、もうひとつ「ハブ」という項目を付けるか。

委員 : 項目はあまり多くないほうが良いので、いまある5つの内容に付け加えるのが良い。

委員 : 現在、旧3町は高齢者の人口が多く、これから人口が減っていく中で、厚生会館に来ることができない方も多くなる。そういったときに、ここを起点として、旧3町に出かけていくような取り組みが必要になっていくと考えている。旧3町に住む方々が取り残されることのないように、基本理念に入れていただきたい。

また、若い世代にホールに来てもらうには、小さな子どもの頃からの体験が必要。人材の育成について、最優先の事項は何か、考えている

委員 : 「ハブ」の考えについては、文化振興基本方針でも位置付けている。それぞれの地域にはそれぞれの文化や文化活動があるため、そのハブとなっていく必要がある。

- 委員 : 参考までに、京都芸術大学内の劇場を、学生にとって、「見る・知る・関わる」ための劇場であると学生に説明する。「関わる」というのが、能動的な参加の部分の例となるのではないか。また、新文化ホールは、まだ見えていない利用者にリーチしていくことについて想定しておいた方が良い。
- 委員 : 次世代の活動支援について、非常に重要なことであると思っている。
- 委員長 : 基本的な考え方と役割はなぜこの順番か。考え方が先の方が適していると思うが。
- 事務局 : 会議資料としてこの順で示しているが、基本理念として整理する中で順序を整え、考え方を示してから役割を説明する形とする。

(5) 施設等の概要 (案)

○事務局より説明

- 委員 : 建設地は新たな土地を考えることも可能ではないかと考えているが、事務局は厚生会館の跡地を前提として考えているか。「市有財産を活用する」というのはどういった意味合いか。
- 事務局 : 新たな土地の可能性も含めて議論をお願いしたいが、基本構想(案)を示していく中で、市としての方向性を示す必要もあると考え、このような表現としている。
- 委員 : 議論の段階で「市有財産を活用する」という表現は議論の中で必要ないのではないか。
- 委員長 : この文言を入れるかどうかは検討の余地がある。委員会で決めることなのか、市で決めることなのか、ということがあるので、市で考えていただきたい。
- 事務局 : 承知した。
- 委員 : 新文化ホールの交流機能として「子どもサポート」とは、どういったものを想定しているか。
- 事務局 : コンサートの際の一時保育機能等を想定している。
- 委員長 : 託児室のようなものということか。
- 事務局 : そういった機能を考えている。
- 委員 : これまでの利用状況を踏まえた上での数字として、収容人数 500~800 人となっているが、検討委員会の議論の中では 1000 席も含めて検討すべきではないか。結果的に小さくなったとしても、議論の段階から小さな客席規模のみで考えていくことは、攻めの姿勢がないように感じる。
- 委員 : 中丹文化会館では、大阪のオーケストラが来ても来場者は 4~500 人のみ。個人的な意見だが、その他の日常的な文化活動に利用する諸室を圧迫してまで 1000 席が必要かは疑問である。攻めの姿勢は事業で示すのが良いと思う。
- 委員長 : 厚生会館ができた当時の市の人口、学校の生徒数を踏まえて検討するのが良い。時代的な背景を考えると、これからどうなっていくかを踏まえて考えていく必要があるのではないか。

委員 : 1000 席が望ましいかどうかではなく、現在ある客席規模を小さくする意味が分かるように、具体的な議論をしていくべきだと考えている。

事務局 : ホール機能の客席規模の記載については、構想(案)の段階で改めて検討をお願いしたい。

(6) 管理運営の考え方(案)

○事務局より説明

委員長 : 直営か指定管理か、それぞれの課題を別の機会に説明いただきたい。

委員 : 直営、指定管理以外の運営形態も検討されているか。

委員 : 直営か指定管理以外の手をとるのであれば、知恵を絞り、作戦をよく考えて行わなくてはならない。

4 その他

次回検討委員会 : 令和4年10月24日(月)午後2:00~午後4:00

場所 : 福知山市厚生会館中会場

5 閉会

以上